

## 看護学科教育課程

教育内容		授業科目	単位数	時間数	教育内容	授業科目	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の 基盤	国語表現法	1	30	地域・在宅看護論	地域環境論	1	15
		論理的思考	1	30		地域・在宅看護概論	1	15
		生活科学	1	30		地域・在宅看護実践論Ⅰ	1	30
		看護情報学	1	30		地域・在宅看護実践論Ⅱ	1	30
	哲学	1	30	地域・在宅看護実践論Ⅲ		1	15	
	チーム医療論	1	30	成人看護学概論・保健論		1	15	
	人間と生活・社会の理解	心理学	1	30	急性期看護論	1	30	
		社会学	1	30	回復期看護論	1	30	
		教育学	1	30	慢性期看護論	1	30	
		文化人類学	1	30	終末期看護論	1	30	
		人間関係論	1	30	がん・周術期看護論	1	30	
		家族看護学	1	30	老年看護学概論・保健論	1	15	
		コミュニケーション論	1	15	老年看護論Ⅰ	1	30	
		生命倫理	1	15	老年看護論Ⅱ	1	30	
英語・英会話		1	30	老年看護論Ⅲ	1	15		
小計		14	390	小児看護学概論	1	15		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60	小児看護学保健論	1	15	
		解剖生理学Ⅱ	2	60	小児看護論Ⅰ	1	30	
		生化学	1	30	小児看護論Ⅱ	1	30	
		栄養学	1	15	母性看護学概論・保健論	1	15	
		看護形態機能学	1	30	母性看護論Ⅰ	1	30	
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30	母性看護論Ⅱ	1	30	
		病理学	1	30	母性看護論Ⅲ	1	15	
		疾病論Ⅰ	1	30	精神看護学概論・保健論	1	15	
		疾病論Ⅱ	1	30	精神看護論Ⅰ	1	30	
		疾病論Ⅲ	1	30	精神看護論Ⅱ	1	30	
		疾病論Ⅳ	1	30	精神看護論Ⅲ	1	15	
		疾病論Ⅴ	1	30	看護の統合と実践概論<看護管理 医療安全>	1	30	
		疾病論Ⅵ	1	30	看護の統合と実践論Ⅰ<国際看護 災害看護>	1	30	
		薬理学	1	30	看護の統合と実践論Ⅱ<看護技術の統合演習>	1	30	
		看護形態機能学	1	30	看護の統合と実践論Ⅲ<ケーススタディ>	1	15	
	健康支援と社会保障制度	社会福祉論	1	30	基礎看護学実習Ⅰ	1	40	
		公衆衛生	1	30	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	
		運動科学	1	20	地域・在宅看護論実習	2	90	
		関係法規	1	30	成人・老年看護学実習Ⅰ<施設>	2	60	
		治療総論Ⅰ	1	30	成人・老年看護学実習Ⅱ<慢性期Ⅰ>	2	90	
		治療総論Ⅱ	1	30	成人・老年看護学実習Ⅲ<慢性期Ⅱ>	2	90	
		小計	22	635	成人・老年看護学実習Ⅳ<急性期>	2	90	
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	成人・老年看護学実習Ⅴ<回復期・リハビリテーション期>	2	90
			基礎看護技術論Ⅰ	1	30	小児看護学実習	2	90
			基礎看護技術論Ⅱ	1	30	母性看護学実習	2	90
			基礎看護技術論Ⅲ	1	30	精神看護学実習	2	90
生活援助技術論Ⅰ			1	30	看護の統合と実践実習	2	90	
生活援助技術論Ⅱ			1	30	小計	66	2065	
生活援助技術論Ⅲ			1	30	総計	102	3090	
診療援助技術論			1	30				
治療処置別看護			1	30				
症状別看護			1	30				
看護研究概論			1	15				

# 授業科目概要

## 基礎分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期	
科学的 思考の 基盤	国語 表現法	1 (30)	日本語の構造や言葉の役割を知ることを通して、国語力をより確実なものにする	1.国語表現法とは 2.三分節法について 3.基本的な文章構成について 4.レポートを書く 5.文章を書く 6.手紙・ビジネス挨拶文を書く	講義 演習	1年 前期
	論理的 思考	1 (30)	論理的思考及び論理的思考に基づいた表現力と読解力を養う	1.論理的思考について 2.評論文を要約する 3.小論文の書き方 4. レポートの書き方について 5.討議法について 6.カンファレンスについて 7.ディベートについて	講義 演習	1年 前期
	生活科学	1 (30)	日常生活における健康に影響する危険因子について学び、看護実践へとつなぐ	1.生活科学とは 2.エネルギー資源と生活 3.水と生活 4.環境と生活 5.生命科学と生活 6.情報・通信と生活 7.衣服材料と洗剤の安全性・衣服の管理 8.住まいと生活 9.安全な住まいと今後の問題点 10.食生活と安全性	講義 演習	1年 前期
	看護情報 学	1 (30)	医療・看護領域における高度情報化に対応できるようになるために、コンピューターを活用でき、看護に関する情報管理について学ぶ	1.情報科学とは 2.コンピューターの基礎知識 3.統計的分析を用いた調査技法 4.情報倫理について 4.情報機器を用いた演習	講義 演習	1年 前期
人間と 生活・ 社会の 理解	哲学	1 (30)	看護する者も看護される者も同じ人間であり、その人間は心と体を備えた限りある生物体である。人間に対する根本的な認識から看護を考える	1.人間とは何か 2.共に生きるということ	講義	1年 前期
	心理学	1 (30)	人間の心理と行動を科学的にとらえ、説明する心理学の諸領域の基礎理論について学ぶ	1.心理学とは 2.心の働き 3.適応 4.パーソナリティ 5.発達 6.社会と集団 7. 心理臨床 8.医療、看護と心理	講義 演習	1年 前期
	社会学	1 (30)	社会と社会の中で起こるさまざまな事象の成り立ちやあり方について学ぶ	1.社会学とは 2.社会化とジェンダー 3 地位と役割 4.社会と自己 5.集団のなかの個人 6.組織の中の個人 7.社会的ジレンマ 8.自殺とジレンマ 7.自殺と社会	講義 DVD	1年 前期

## 基礎分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期
教育学	1 (30)	教育学に関する基礎的な知識を学び、「学ぶこと」や「教えること」について考察する	1.「教育」とは何か 2.社会変動と教育 3.人を教えるということ 4.学びの場 5.教育の目標と評価 6. キャリア教育 7.ジェンダーとセクシャリティ 8.特別ニーズ教育・インクルーシブ教育 9.生涯教育	講義	1年 前期
文化人類学	1 (30)	文化人類学(人間の多様な社会や文化に関する比較研究)の知見のもとに、看護行為の前提となる人間の相互理解のあり方について検討し、看護師として人間・社会関係の構築に必要な資質や能力を学ぶ。	1.人間と文化 2.異文化理解 3. 人と人とのつながり 4.人間と時間 5. 宗教 アニミズム 呪術 妖術 6.健康 病気 医療 7.死	講義	1年 前期
人間関係論	1 (30)	多様化する社会の中で、看護の対象の持つ価値観や期待を理解し、尊重することは重要である。また、保健医療福祉専門職、家族、地域社会との密接な連携が不可欠である。いずれの場合においても、相手の思い、考え、期待などを理解するとともに、専門職として必要な情報提供や説明を行い、協働で看護を提供していくための合意と人間関係を築いていくための態度や能力について学ぶ	1.人間関係とは 2.エリクソンの発達課題 3.対人認知 4.対人関係と役割 5.態度と対人行動 6. 集団と個人 7.コミュニケーション 8. カウンセリングと心理療法 9.コーチング 10.アサーティブ コミュニケーション 11.家族を含めた人間関係 12.地域を作る任権関係	講義 GW 演習	1年 前期
家族看護学	1 (30)	複雑かつ多様な家族を理解するにあたり、家族看護の対象や家族看護を考える理論と介入方法、家族看護展開の方法についての方法について学ぶ	1.家族看護とは 2. 家族看護の対象の理解 3. 家族看護を支える理論と介入方法 4. 家族看護展開の方法 5. 事例に基づく家族看護学の実践	講義 演習	1年 後期
コミュニケーション論	1 (15)	コミュニケーションの基礎について学び、基礎的なコミュニケーション能力を養う	1.コミュニケーションの意義と目的 2.コミュニケーションの構成要素と成立過程 3.関係構築のためのコミュニケーションの基本 4.効果的なコミュニケーションの実際 5.カウンセリング 6.日常場面からみるコミュニケーション	講義 演習	1年 前期
生命倫理	1 (15)	死生観を捉え、医療の変化を医学の進歩を踏まえて学び、生命と倫理をめぐる諸問題を明らかにする	1.生命倫理の成立史 2.安楽死、尊厳死 3.緩和ケア、ホスピス運動の目的 4.医療資源配分の選定基準 5. 生涯新生児問題 出事前診断の問題 6 インフォームドコンセントと自己決定 7. 脳死と臓器移植	講義 GW	2年 前期
英語・英会話	1 (30)	医療、看護の場面における英語表現の読解力や、基本的なコミュニケーション能力を学ぶ	実践につながる医学分野の英語を学習できるテキストや資料に沿いながら、同時にそれを助ける英文法、一般の解説を全 15 回の中で並行して行なう。	講義 演習	2年 後期

専門基礎分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期	
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2 (60)	解剖学は、正常な身体の形態と発生を研究する学問であり、生理学は、正常な生物体の機能について研究する学問である。この二つは基礎医学教育の根幹をなすものであり、看護を学ぶ上でも幅広く深い理解が必要である	1.人体の概要 2.人体とその構成 3.骨格系 4.筋系 5.血液・間質液・リンパ及び生体防御機構 6.体液と電解質 7.循環器系 8.呼吸器系 9.体温とその調節	講義	1年前期
	解剖生理学Ⅱ	2 (60)	解剖学は、正常な身体の形態と発生を研究する学問であり、生理学は、正常な生物体の機能について研究する学問である。この二つは基礎医学教育の根幹をなすものであり、看護を学ぶ上でも幅広く深い理解が必要である	1.消化器系 2.泌尿・生殖器系 3.内分泌系 4.神経系 5.感覚器系	講義	1年前期
	生化学	1 (30)	生体を作っている物質の構造を知り、食事性の栄養物質が生命活動の中でどのように変化するかを学ぶ	1.生体を構成する物質の構造と性質 2.生体内の物質代謝 3.その他の生体内物質 4.核酸と遺伝	講義	1年前期
	栄養学	1 (15)	生命の維持、成長及び臓器・組織の正常な機能の維持、エネルギー生産のために必要な栄養素とその適正量、合理的な摂取方法について学ぶ	1.栄養素の働き 2.食事と食品 食物摂取と消化・吸収・代謝 3.ライフステージと栄養 4.疾患別栄養管理	講義	1年後期
	看護形態機能学	1 (30)	解剖生理学ⅠⅡと合わせて、人体の構造と機能の知識を生活者としての人間に当てはめ、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるのかを学び、看護実践に結び付けていくのか理解することが目的である。	1. 何のための生活行動か 恒常性維持 体温 危険回避 2.ヘンダーソンの14の基本的ニーズの枠組みから日常生活を考える。 3.プレゼンテーション 4.自分の日常生活から健康を考える。	講義 演習	2年前期
疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1 (30)	各種微生物の特性とそれによって起こる感染症及び免疫に関する基礎的な知識を学ぶ	1.微生物概論 2.細菌の培養環境と栄養 感染症の種類 3.免疫 4.滅菌と消毒 5.予防接種 6.細菌学各論 7.細菌 8.ウイルス学各論	講義	1年後期
	病理学	1 (30)	疾病の成り立ち及び回復過程を理解するため、種々の病態像を把握し、看護の視点から健康問題を幅広い視野で捉える能力を養う	1.病理序論・病理検査 2.新生児スクリーニング検査、奇形 3.黄疸 4.胆石症、門脈圧亢進、梗塞、血栓 5.塞栓、DIC 6.ネフローゼ 炎症 7.腫瘍(良性・悪性腫瘍 がんの種類) 8.腫瘍(がんの転移) 9.消化器疾患(胃潰瘍 ホリーフ 胃がん) 10.消化器疾患(早期胃がん 進行がん スキルス胃がん 大腸がんの発生) 11.消化器疾患(炎症性腸疾患) 12.肝疾患(ウイルス性肝炎) 13.肝疾患(肝硬変 肝がん) 14.血液の疾患 15.終講試験	講義	1年後期

## 専門基礎分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期	
疾病の 成り立ちと 回復の 促進	疾病論Ⅰ	1 (30)	機能障害によって起こる症状と主な疾患・治療について学ぶ	1. 循環器 2. 血液・造血器	講義	1年 後期
	疾病論Ⅱ	1 (30)	機能障害によって起こる症状と主な疾患・治療について学ぶ	1.呼吸器 2.免疫・アレルギー・膠原病 (内科的腎臓含む)	講義	1年 後期
	疾病論Ⅲ	1 (30)	機能障害によって起こる症状と主な疾患・治療について学ぶ	1.内分泌・代謝 2.消化器	講義	1年 後期
	疾病論Ⅳ	1 (30)	機能障害によって起こる症状と主な疾患・治療について学ぶ	1.腎・泌尿器系 2.感覚器 (眼・耳鼻咽喉・口腔)	講義	2年 前期
	疾病論Ⅴ	1 (30)	機能障害によって起こる症状と主な疾患・治療について学ぶ	1.運動器 2.女性・生殖器	講義	1年 後期
	疾病論Ⅵ	1 (30)	機能障害によって起こる症状と主な疾患・治療について学ぶ	1.脳神経 2.感染症 3.感覚器(皮膚)	講義	2年 前期
	薬理学	1 (30)	臨床において安全に薬物を投与し、その経過を捉えるための基礎を学び、薬物療法を受ける対象の理解、与薬の技術や服薬指導につなげる	1.薬理学総論 2.薬物の作用するしくみ 3.薬物動態学 4.抗感染症薬 5.抗がん薬 6.免疫治療薬 7.抗アレルギー薬・抗炎症薬等	講義	1年 後期
健康支援と 社会保障制度	社会福祉論	1 (30)	生活者のくらしの実態と、生存権に根ざした社会保障・社会福祉保障について理解する	1.生活問題の展開 2.社会保障制度 3.年金保険・医療保険 4.雇用保険・労災 5.社会福祉の法体系と関係機関 6.高齢者福祉・老人保険 7.介護保険 8.障害者福祉 9.児童家庭福祉 10.公的扶助制度 11.社会福祉援助の方法 12.連携	講義 GW	1年 後期
	公衆衛生	1 (30)	地域住民の生(生命・生活・生産)を幅広い学問体系からなる公衆衛生を理解し、地域の健康及び個人の健康の維持増進を目指す組織的な取り組みである種々の公衆衛生活動を理解する	1.公衆衛生学総論 2.公衆衛生の活動対象 3.公衆衛生のしくみ 4.集団の健康をとらえるための手段 5.環境と健康 6.感染症とその予防策 7.国際保健、災害保健 8.地域における公衆衛生の実践 9.学校・職場と保健	講義 GW	2年 前期
	運動科学	1 (20)	健康づくりのための運動の意義を理解し、ライフステージに応じたスポーツが実践できる基礎を学ぶ	1 健康の概念 現代社会と健康 2.食生活と健康 3.健康づくり運動の実際 4 運動疫学の基礎 5.健康づくりの施策 6.ライフステージに応じたスポーツ	講義 実技	1年 後期

## 専門基礎分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期	
健康 支援 と 社会 保 障 制 度	関係法規	1 (30)	法律とはなじみにくく難解なものだと敬遠されがちであるが、学生が身近に興味を持つことができるよう取り組みたい。	1.法規の基礎知識 2.保健師助産師看護師法 3.人に関する法律 4.物・場所に関する法律 5.介護保険法 6.特別な配慮を必要とする人に関する法律 7.社会的 8.福祉関係法規 9.その他の関係法規	講義 GW	2年 後期
	治療総論 I	1 (30)	専門職種の役割や、疾病の回復を促進する各治療の基本的理論と、生活の視点に立った各種の治療方法の実際を学ぶ。	1.疾患別の栄養食事療法 2.放射線療法の目的とその適応 3.放射線療法の種類と特徴 4.放射線療法の実際 5.放射線障害と放射線防護 6.臨床検査とその役割 7.検体検査 8.生体検査	講義	1年 後期
	治療総論 II	1 (30)	専門職種の役割や、疾病の回復を促進する各治療の基本的理論と、生活の視点に立った各種の治療方法の実際を学ぶ。	1.運動療法とは 2.運動療法の種類と特徴 3.運動療法の実際 4.リハビリテーションとは 5.リハビリテーションの種類と特徴 6.手術療法の目的と意義 7.外科手術手技・処置の基本 8.麻酔の知識 9.手術室の管理 10.救急医療とその実際 11.臓器移植	講義	1年 後期

## 専門分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期
看護学 概論	1 (30)	看護を志す初学者としての、基本的な考え方を身につける。	1.看護とは何か 2.看護の継続性と情報共有 3.看護の対象の理解 4.国民の健康・生活の全体像の把握 5.看護の提供者 6.看護における倫理 7.看護の提供のしくみ 8.広がる看護の活動領域	講義	1年 前期
基礎看護 技術論Ⅰ	1 (30)	「看護」における「技術」とは何かについて考察する。 コミュニケーションの特徴を理解し、その意義と目的から看護に必要なコミュニケーションスキルを身につける	1)技術の概念 2)コミュニケーション	講義 演習	1年 前期
基礎看護 技術論Ⅱ	1 (30)	看護を系統的に実践するために必要な思考過程を理解し、ヘンダーソンの枠組みを用いた看護過程の展開技術を身につける。	1.看護過程とは(構成要素) 看護過程の基盤となる考え方・看護理論 2.事例展開演習(COPD) 情報の分析・解釈 3.関連図 4.看護計画の立案・実施・評価	講義 演習	1年 後期
基礎看護 技術論Ⅲ	1 (30)	看護実践の基礎となる基本的技術を身につけ、さらに対象に必要な看護が提供できるためのフィジカルアセスメントの方法について理解できる。	1.ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントとは 2.体温、呼吸、脈拍、血圧測定について 3.意識レベル、瞳孔測定について 4.呼吸・循環系のフィジカルアセスメント 5.消化器のフィジカルアセスメント 6.筋・骨格系のフィジカルアセスメント 7.身体計測 8.バイタルサイン測定演習 9.フィジカルアセスメント演習 10.身体計測演習	講義 演習	1年 後期
生活援助 技術論Ⅰ	1 (30)	あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎援助技術について、知識・技術を身につける	1.生活環境の整備 2.食生活	講義 演習	1年 前期
生活援助 技術論Ⅱ	1 (30)	1)あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎援助技術について、知識・技術を身につける 2)活動と休息の意義を理解し、安全・安楽な援助技術を修得する 3)対象における排泄の意義を学び、排泄に関する生活行動を整えるための技術を学ぶ	1.活動・休息 2.排泄	講義 演習	1年 前期
生活援助 技術論Ⅲ	1 (30)	対象に応じた日常生活援助(清潔・衣生活)の方法について学ぶ。日常生活援助に必要な知識・技術・態度を学修する。	1.清潔・衣生活	講義 演習	1年 前期

## 専門分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期	
基礎看護学	診療援助 技術論	1 (30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の治療、処置に伴って実施する与薬における基本的援助について学修する。</li> <li>・感染は完全に予防することはできないが、正しい知識と技術とそれらを適切なタイミングで活用することで、感染のリスクを最小限にとどめることはできる。こうした感染管理の考え方にに基づき、正しく適切に基本的感染予防技術が選択・実践できるようにする。</li> <li>・診療に伴う看護を行う際に基本的な診療援助技術について学修する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与薬と看護</li> <li>2. 感染予防と看護</li> <li>3. 診療検査と看護</li> </ol>	講義 演習	1年 後期
	治療処置 別看護	1 (30)		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.経過に基づいた看護</li> <li>2.治療・処置別看護</li> </ol>	講義 演習	1年 後期
	症状別看護	1 (30)	疾患等により、対象が知覚する様々な機能障害に関連した症状の意味と、看護上のニーズに影響及ぼす機序を理解し、症状緩和のための援助技術を実践できる能力を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.発熱のある患者の看護 ショック状態にある患者の看護 浮腫のある患者の看護 褥瘡のある患者の看護 貧血のある患者の看護 意識障害のある患者の看護 呼吸困難のある患者の看護 血圧異常のある患者の看護 排泄障害のある患者の看護 疼痛のある患者の看護</li> <li>2.事例による看護実践の展開</li> </ol>	講義 演習	2年 前期
	看護研究 概論	1(15)	看護研究のプロセスおよび事例研究について教授し、看護事象を科学的根拠に基づいて分析し、考察するための基礎的な知識を養う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.看護研究の意義と目的 研究のプロセス 研究デザイン 研究計画書</li> <li>2.倫理上の問題 データ収集法 データ分析法 論文構成 文献検索 文献の活用 ケーススタディとは</li> <li>3.ケースの決定 文献検索 研究計画書の作成</li> <li>4.ケースの作成</li> <li>5.抄録の作成 発表原稿の作成</li> <li>6.発表準備</li> </ol>	講義 演習	2年 前期

## 専門分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期
地域環境 論	1 (15)	地域の特性を理解し、地域で暮らす人々の健康について考える能力を養う。	1.調査する地区設定 2.既存資料の収集・整理 3.地区踏査 4.調査結果のまとめ・発表	講義 GW	1年 前期
地域・在宅 看護概 論	1 (15)	在宅看護を必要とする地域で生活する人とその家族の特徴を理解する。地域で生活する・療養する人とその家族を支える保健医療福祉についての知識を学ぶ。	1.在宅看護の目標と特徴 2.在宅看護の対象者 3.在宅療養の支援 4.在宅看護における法令・制度とその活用 5.在宅看護の展開	講義	2年 前期
地域・在宅 看護実 践論Ⅰ	1 (30)	・暮らしの場で行われる日常生活援助技術および医療管理を必要とする地域で生活する人々とその家族への看護について学ぶ。 ・地域・在宅看護に必要な訪問マネーおよびコミュニケーション技術について学ぶ。	1.コミュニケーション・訪問マネー 2.食生活・嚥下に関する援助 3.排泄に関する援助 4.移動・移乗に関する援助 5.清潔に関する援助 6.服薬に関する援助 7.在宅における医療管理	講義 演習	2年 前期
地域・在宅 看護実 践論Ⅱ	1 (30)	・地域で生活する人々とその家族や生活背景などをアセスメントし、必要な看護を考える能力を養う。 ・地域で生活し続けることを支援するための社会資源の活用について考える能力を養う。	1.地域・在宅看護過程の展開のポイント 2.地域・在宅看護の介入時期別看護 3.地域で生活しながら療養する人々とその家族への援助 4.在宅療養・地域包括ケアシステムにおける災害対策 5.保健医療福祉対策と関係する政策の包括的な社会資源の活用	講義 演習	2年 後期
地域・在宅 看護実 践論Ⅲ	1 (15)	・地域で生活しながら療養する人々とその家族の意向や希望を中核とした「目標志向型思考」で対象を捉え、個別性を重視した看護を考える能力を養う。 ・地域で生活する人々を包括的に支援する「地域共生社会における包括的ケア」というという視点で考える能力を養う。	1.在宅看護の事例展開 2.地域関連図	講義 演習	2年 後期
チーム医 療論	1 (15)	地域包括ケア・地域共生社会の実現のため、多様な場で暮らす、さまざまなライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の提供にむけて、お互いの職種の特性を活かしながら、対象の目標達成、課題解決に向けてよりよい方法をともに検討し、実現をめざす能力を養う。	1.科目目標・学習の進め方の説明 連携事例の検討 2.他職者の役割と機能の理解 .看護師の役割についての考察 3-5.他職種の専門職者より役割や機能について学ぶ ・薬剤師・診療放射線技師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士 6-8.他職の専門学校生(理学療法士)とのそれぞれの立場より事例への援助について意見交換し、グループ発表する。	演習	2年 後期

地域・在宅看護論

## 専門分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期	
成人看護学	成人看護学概論・保健論	1 (15)	成人期にある対象を深く広く理解し、成人看護に有用な理論ならびに概念を学び、看護に応用する能力を養う。	1.成人期にある人の理解 2.青年期・壮年期・向老期の特徴 3.成人期の健康特性 4.健康生活に適応・維持する看護、健康教育	講義 GW	1年 後期
	急性期看護論	1 (30)	生命の危機や心理的危機に遭遇した成人の身体的、精神的、心理的影響を理解し、急性期から回復期へと危機を脱する為に必要な看護について学修する。さらに、手術等により救急看護を必要とする対象への診療の介助、看護技術を理解し、いのちを救うために協働する医療チームの特性と多職種連携について学修する。	1.急性期看護の概念、特徴について 感染症患者の看護 消化管疾患患者の看護 2.手術を受ける患者の看護 3.手術を受ける患者の看護の実際	講義 演習	2年 前期
	回復期看護論	1 (30)	回復期における身体的・精神的・社会的特徴と、そのレベルに応じた援助方法を習得する	1.リハビリテーション看護の定義と理念 2.経過別リハビリテーション、多職種連携 3.運動器疾患をもつ患者の看護、看護の役割 4.検査の看護、保存療法を受ける患者の看護 5.変形性膝関節症患者の看護 6.腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 7.大腿骨骨折患者の看護 8.四肢切断後の看護 9.脊髄損傷患者の看護 10.脳・神経疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 11.脳梗塞患者の看護・くも膜下出血患者の看護	講義 演習	2年 前期
	慢性期看護論	1 (30)	成人期における疾病や障害と共生するためのセルフマネジメント能力の獲得に向けた、看護実践の基本となる思考プロセスを学修する。	1.慢性期疾患の看護 2.皮膚疾患の看護 3.感覚器疾患の看護 4.免疫・アレルギー疾患の看護 5.内分泌疾患の看護 6.腎・泌尿器疾患の看護 7.代謝疾患の看護 8.糖尿病患者の看護	講義 演習	2年 前期
	終末期看護論	1 (30)	終末期にある患者の全人的苦痛と死の受容過程を理解し、人生の最後の時を支える看護を学ぶ。また家族の精神的苦痛を理解し、患者の死後もケアが必要であることを知る。 この学習から自己の「死生観」を深めることができる	1.終末期にある患者・家族の特徴 2.終末期看護の特徴 3.終末期にある患者・家族への援助 4.終末期にある患者の看護	講義 GW	2年 後期
	がん・周術期看護論	1 (30)	1)がんの病態・治療の特徴、日常生活への影響を理解し、がん患者や家族がその人らしい生活が送れるよう看護援助方法について学ぶ 2)急性期看護論で学習した周術期看護の知識をもとに、胃がんで手術を必要とする患者事例を通し、周術期における対象の看護上の問題を理解する。さらに、演習を通して術後の回復を支援するために必要な臨床判断能力や看護実践能力につなげる事ができる。	1.がん医療の現在 2.がんの病態と臨床経過(肝臓がん) 3.がん患者の看護 4.がん性疼痛について 5.がん治療に対する看護 6.がん治療の場と看護 7.補完療法 8.緩和ケア 1)手術が必要となった患者の対象の理解 2)クリニカルパスと看護問題の抽出 3)看護計画の立案 4)周術期における看護場面のシミュレーション演習 5)退院後の生活を支える看護について	講義 演習	2年 後期

## 専門分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期	
老年看護学	老年看護学概論・保健論	1 (15)	老年期の特徴的な健康問題について学び、解決のための看護を理解する。	1.老年期の対象の理解 2.高齢化社会の特徴 3.高齢者の保健・医療・福祉 4.老年看護の機能 5.老年看護の目標 6.老年看護の原則	講義	1年 後期
	老年看護論 I	1 (30)	加齢変化が日常生活に及ぼす影響や健康上の問題を抱えた高齢者を理解し支援方法を習得する。	1.高齢者の基本的な生活への援助 2.健康障害のある高齢者の理解と援助 3.老年看護技術	講義 演習	2年 前期
	老年看護論 II	1 (30)	・高齢者の健康と QOL の維持・向上に対するリハビリテーションについて学ぶ。 ・社会の変化に伴う高齢者の医療・保健・福祉の場における看護について学ぶ。	1.高齢者のリハビリテーションと看護 2.事例によるリハビリテーションの実際 3.各施設における高齢者とその家族の看護	講義 演習	2年 後期
	老年看護論 III	1 (15)	老年期の発達課題と加齢に伴う変化を理解し、看護過程展開の展開方法を学ぶ。	1.老年看護の看護過程について 2.事前学習 3.情報の整理 4-5.アセスメント 6.関連図 7-8.看護計画	講義 演習	2年 前期
小児看護学	小児看護学概論	1 (15)	近年の子どもがおかれている社会状況における課題や胎生期から思春期までの成長発達過程や代表的な発達理論、子どもの安全に対する支援のあり方など基礎的知識を学ぶ。	1)小児看護の特徴と理念 2)子どもの成長・発達 3)小児各期の特徴と看護 終講試験	講義	2年 前期
	小児看護学保健論	1 (15)	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、症状から見た看護、コミュニケーションを含む看護技術を教授し子どもや家族に必要な支援を考える上での援助や教育指導について学修する。	1)病気・障害をもつ子どもと家族の看護 2)子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 3)子どもの疾病の経過と看護 4)子どものアセスメント 5)症状を示す子どもの看護 6)検査・処置を受ける子どもの看護 終講試験	講義	2年 前期
	小児看護論 I	1 (30)	新生児および小児に生じる健康障害について、病態・症状・診断・治療・関わりなどについて学修する。	1.小児期に多い疾患・小児に特有な疾患 2.小児の疾患の診断・治療、予防接種 3.小児期に多い事故・外傷と子どもの虐待 4.蘇生法	講義	2年 前期
	小児看護論 II	1 (30)	子供の健康問題の経過や置かれている状況、症状から見た看護、コミュニケーションを含む看護技術やそれぞれの健康レベルに応じた多様な特性のある子どもとその家族を対象にその子らしく生活できるように援助や教育指導について学ぶ	各疾患の看護 ①呼吸器系疾患 ②循環器系疾患 ③腎疾患 ④消化器系疾患 ⑤染色体異常 ⑥代謝異常 ⑦アレルギー疾患 ⑧感染症 終講テスト	講義 演習	2年 後期

## 専門分野

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい		授業概要	講義 方法	講義 時期	
母性看護学	母性看護学概論・保健論	1 (15)	母性看護の対象理解を、女性のライフサイクルにおける性と生殖や母子統計、法規など幅広い視点で捉え、価値観の多様化に応じたヘルスプロモーションのための基礎的知識を修得する。		1.母性の概念と母性看護の意義・役割 2.母子保健の変遷と動向 3.母性看護の対象 4.母性看護における生命倫 5.ライフサイクル各期における特徴と看護	講義	2年前期
	母性看護論Ⅰ	1 (30)	妊娠・分娩・産褥期および新生児の定義、そして生理的变化と適応、病態について学び、看護するための基礎的知識を習得し、科学的根拠に基づき判断できる能力を養う。		1.妊娠期の経過 2.分娩期の経過 3.産褥期の経過 4.新生児の生理 5.妊娠、分娩、産褥、新生児期の異常	講義	2年前期
	母性看護論Ⅱ	1 (30)	妊娠、分娩、産褥期及び新生児期を通して、母子の健康の保持・増進・回復をめざした看護について学ぶ。また、妊娠、分娩、産褥期及び新生児期の異常について理解し、母子に応じた看護の方法を学ぶ。		1.妊娠期の経過と看護 2.分娩期の経過と看護 3.産褥期の経過と看護 4.新生児の生理と看護 5.妊娠、分娩、産褥、新生児期の異常と看護	講義 演習	2年後期
	母性看護論Ⅲ	1 (15)	正常褥婦事例を基に、母子の看護過程の展開技術を習得する。ウエルビーイングの視点で対象をとらえ妊娠・分娩・産褥期の変化を一連の経過としてアセスメントし、母子に応じた援助方法を考える能力を養う。		母性看護における看護過程 正常褥婦の事例展開	講義 演習	3年前期
精神看護学	精神看護学概論・保健論	1 (15)	あらゆる人々の「こころ」の健康について考え、精神的健康の回復、維持増進をはかることをめざし、精神看護学の特徴と基本概念を学ぶ		1.精神障害と精神保健 2.リハビリを基軸とした精神看護 3.精神障害と治療の歴史 4.精神領域で必要な法律と制度 5.地域におけるケアと支援 6.災害時のメンタルヘルスと看護 7.看護師における感情労働 リエゾン看護	講義	1年後期
	精神看護論Ⅰ	1 (30)	精神疾患の理解とコミュニケーション技術を通しての自己の理解について学ぶ。		1.精神症状の理解 2.精神疾患の理解 3.精神科治療と検査 4.プロセスレコード	講義 演習	2年前期
	精神看護論Ⅱ	1 (30)	精神障害者とその家族に対して必要な看護を実践するための基礎的知識・技術を学ぶ	1.精神科での入院治療の意味 2.精神科病棟という治療的環境と患者の生活 3.事故防止、安全管理と倫理的配慮:隔離・身体拘束時の看護 4.幻覚・妄想の看護 5.アルコール依存症の看護・うつ、双極性障害をもつ患者の看護 6.精神障害がある人の身体合併症に対する看護 7.統合失調症の看護 8.終講テスト。	講義 演習	2年後期	
	精神看護論Ⅲ	1 (15)	地域での精神障害者とその家族に対して必要な看護を実践するための基礎的知識・技術を学修する 医療の場・災害時におけるメンタルヘルスと看護の実際を学ぶ		1.地域におけるケアと支援 2.地域生活を支えるシステムと社会資源 3.精神科作業療法、作業療法士的アプローチ、リハビリテーション療法 4.SST、デイケア 5.地域精神福祉と社会参加 6.リエゾン精神看護の実際 7.災害時の看護 8.終講テスト	講義 演習	2年後期

授業科目	単位 (時間)	学習のねらい	授業概要	講義 方法	講義 時期	
看護の統合と実践	看護の統合と実践概論 (看護管理 医療安全)	1 (30)	・看護管理の基礎的な知識を学とともに、看護業務を行う一員としての役割と責任について考える。また、チーム医療及び多職種との協働、看護教育について学び、広い視野を持って看護について考える。	1, 看護管理 2, 看護を取り巻く諸制度	講義	2年前期
	看護の統合と実践論Ⅰ (国際看護 災害看護)	1 (30)	・国際社会における日本の役割を学び、医療、看護の分野における国際協力の在り方について考える。 ・災害活動の法的根拠や、様々な職種の人々と協働し、災害時の看護活動を円滑に行うために必要な災害医療の基礎的知識を理解する。また、救援者を含めたこころのケアについても考えることができる。	1.世界の健康問題の現状や国際協力のしくみ 2.国際救援と看護 3.災害看護の基礎知識 4.災害サイクルに応じた災害看護 5.災害とこころのケア	講義 演習	3年前期
	看護の統合と実践論Ⅱ (看護技術の統合演習)	1 (30)	既習の知識・技術を統合し、卒業時に求められる知識・技術・態度を習得し、対象の状態に応じた看護が実践できる能力を養う。看護実践能力を評価し、自己の課題を明確にする。	1.複数患者の事例から看護を考える 2.多重課題時の対応 3.看護におけるリーダーシップメンバーシップ 4.OSCE	講義 演習	3年前後期
	看護の統合と実践論Ⅲ (ケーススタディ)	1 (15)	ケーススタディを通して、主体的実践により研究態度を養い、自己の看護観を育む。	1.ケーススタディについて 2.ケーススタディの実施 3.論文作成 4.発表	講義 演習	3年前後期